

# 説明的な文章を読む必然性が生まれる授業をめざして

福山市立手城小学校 川本忠司

## 1 実践の趣旨

日々の国語の授業では、自分の考えの根拠になる文や言葉を明らかにしていくようにしている。それにより、徐々に文中の言葉に気をつけて読んでいくことができる児童が増えてきているが全体とはいえない。

また、グループでの対話では、話し合いの型がまだできてはおらず、リーダー（司会）を中心とした話し合いができていない。

本実践では、根拠をもとにした自分の考えをもちながら、意欲的に文章を読ませていきたいと思い、説明的な文章を読む必然性が生まれる単元構想を考えた。単元の中で読む必然性が生まれる場については、児童が読まざるを得ない状況を創り出す「学習のゴール」と考えている。そのような場がなければ、学習に対しての必要感がなくなり、教材を仕方なく読む、自分の意見を書かなければならない、という状況に追い込んでしまう。そこで、本実践では、教材を読んでみよう、自分の意見を書いてみよう、という気持ちに向かわせる場の設定が必要だと考え、活動目標を「生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか？－根拠をもとに自分の考えをまとめよう－」とし、学習のゴールにお互いの意見を交流する会を設定した。

また、児童の思考を広げさせていくために対話を仕組み、主体的な学び合いを育てていきたいと考えた。

## 2 実践の概要

(1) 単元名 生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか？

－根拠をもとに自分の考えをまとめよう－

教材「生き物はつながりの中に」(光村6年上)

(2) 単元仮説(検証の視点と方法)

ワークシートを工夫し、「立論」や「意見文を書く活動」を仕組むことで、筆者の考えを読み取る力、根拠をもとに自分の考えを明確にする力が高まるであろう。

	検証の視点	検証の方法
視点Ⅰ	ワークシートを工夫し、「立論」や「要約文」を書く活動を仕組むことで、筆者の考えを読み取ることができたか。	立論 要約文
視点Ⅱ	根拠をもとに自分の考えを「意見文」に明確に表すことができたか。	意見文

(3) 観点別学習状況の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○説明的文章を読み取って筆者の問いかける内容に関心をもち、それに対する自分の考えをもとうとしている。	◎筆者がこの文章を通して読者に考えてもらいたいと思っていることをまとめている。(イ) ◎筆者の考えをまとめ、自分の考えをもっている。(エ)	○文章全体の構成(「問題提起」「根拠」「まとめ」「主張」と部分の役割を理解している。 (オ(ア))

(4) 手立て

①ワークシートの効果的な活用

- ・教材文を一枚文にし、構成をつかみやすくする。
- ・全文を内容ごとのまとまりに分けて、文章構成をとらえさせていく。

- ・段落相互のつながりが分かるようにする。(段落構成図の活用)
- ・筆者のものの見方、考え方、感じ方について、自分の考えをもちながら読む。  
(筆者を評価する読み)

②単元構成の工夫

- ・単元構成図を作り、児童に読まざるをえない状況を設定する。
- ・児童の活動と学習を一体化する。
- ・活動目標(学習のゴール)を設定する。
- ・活動のステップとその活動を達成するための学習目標を設定する。

(5)指導計画

1次(1時間)	ディベートをすることで学習への意欲をもつ。
2次(5時間)	筆者がどちらの立場か考えながら読み、段落構成図を書く。 3つの特徴を読み取り、自分の考えを持つ。 キーワード(あなた・生き物・つながり)を取り入れて文章全体を要約する。筆者の主張を読み取る。
3次(1時間)	「人間か?ロボットか?」の立場をはっきりさせた意見文を書く。
4次(1時間)	お互いの考えを交流する。

(6)授業の様子

本単元における児童の「思考力を高める」とは、検証の視点にある「根拠を挙げて自分の考えをもつことができる」子ども像と考える。その中で、本時では「視点や立場を変えて根拠をもとに考える」ことに重点を置き、授業を展開していった。

1次では、学習への興味、関心をもたせていくためにディベート形式で授業を進めていった。題は、「ペットにするならロボットのイヌ、本物のイヌのどっちがいいですか」とした。児童は、自分が選択した立場で考え、とても楽しそうに主張していた。

【本物のイヌの立場を選択したワークシート】

生き物はつながりの中に  
四つ足の動物は、動物園やペットショップで飼われています。

ぼく「私」は、ペットにするなら本物のイヌの立場で意見をいいます。  
ロボットのイヌは、

それに比べて本物のイヌは、

だから、ペットにするなら本物のイヌの方がいいです。

【ロボットのイヌの立場を選択したワークシート】

生き物はつながりの中に  
四つ足の動物は、動物園やペットショップで飼われています。

ぼく「私」は、ペットにするならロボットのイヌの立場で意見をいいます。  
本物のイヌは、

それに比べてロボットのイヌは、

だから、ペットにするならロボットのイヌの方がいいです。

2次では、段落構成から考えさせていった。

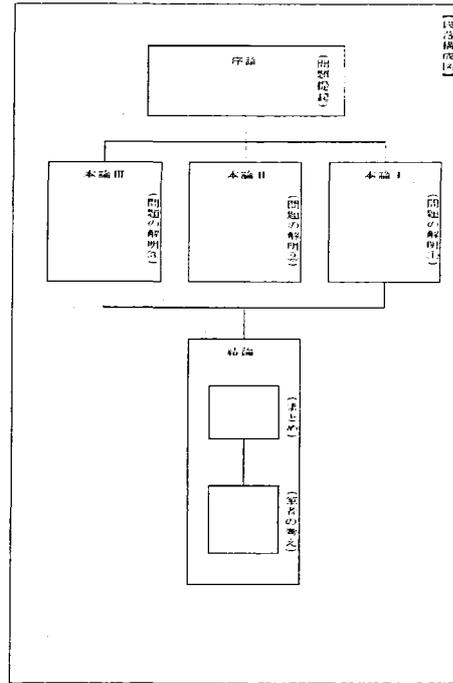
各段落の読み取りの前に段落構成を考えさせることにより、筆者の「話題提示」に対しての「生き物の特徴」が3つのまとまりでできていることをとらえやすくしていくことができた。しかし、段落構成の図としての表現の仕方については、児童の実態から提示して説明した方がよいと考え、ワークシートに段落番号のみを入れれば完成となるようにした。今後は、児童自身で図を表現できるようにしていきたい。

児童の様子では、この活動においても、前時で行ったディベートが児童には残っており、「筆者はどっちの立場で書いているのだろう。」と考えながら読む姿が見られた。児童の中に読む必要感があることを感じさせられた。

文章の読み取りでは、まず、生き物の3つの特徴について読み取っていった。その次には、活動目標にも通じるペットにするなら「ロボットのイヌ」、「本物のイヌ」のどっちの立場に立つかを考えさせていった。そして、それぞれの立場に立った視点で根拠を読み取っていかなくてはならない状況（読みの必然性）を設定していった。児童は、自分の立場に立ち、その立場から自分の視点の根拠を読み取り、ワークシートの中で自分の考えの根拠と結論（結果）とを結びつけていくことができていた。

また、学び合いという点では、対話の型ができていないために、自己内対話の後に「まわし読み」を行った。そして、「まわし読み」が終わったら、プライベート・コミュニケーションで互いに質問をしようようにした。型をあえて取り入れていないために、自由な話し合いができていた。話し合いの時の型があるときもあれば、ない方が深まる時もあることを感じさせられた。

【段落構成をとらえさせるためのワークシート】



生き物はつながりの中に  
図 教材の文章構成をつまよう。  
本文を序論(問題提起)・本論(問題の解決)・結論(まとめ)に分けて考えよう。

【本物のイヌの立場を選択したワークシート】

生き物はつながりの中に  
図 生き物の特徴をとらえさせるためのワークシート

本論Ⅲ  
本論Ⅱ  
本論Ⅰ  
結論

「本物のイヌ」は、  
「ロボットのイヌ」は、  
それら比べて「本物のイヌ」は、  
だから、ぼく「私」は、ペットにするなら「本物のイヌ」にします。

（この特徴をとらえさせる）

【ロボットのイヌの立場を選択したワークシート】

生き物はつながりの中に  
図 まわし読みや対話の型をつまようためのワークシート

本論Ⅲ  
本論Ⅱ  
本論Ⅰ  
結論

「ロボットのイヌ」は、  
「本物のイヌ」は、  
それら比べて「ロボットのイヌ」は、  
だから、ぼく「私」は、ペットにするなら「ロボットのイヌ」にします。

（この特徴をとらえさせる）



4次では、ロボット、人間のそれぞれの視点に立った意見文をもとに意見交流会を開いた。読む側は、自分の意見文が相手を納得させるものになっているのだろうか何度も読み返している姿が見られた。また、聞く側は、自分の考えと比較しながら、興味・関心をもって聞いていた。分からないところや納得できないところについては質問をするなど対話が生まれ、考えが深まっていくのを感じた。

### 3 成果と課題

#### ①成果

活動目標の「生まれ変わるならロボット・人間どっちがいいですか？－根拠をもとに自分の考えをまとめよう－」が子どもの思考の根底にあり、意欲的に文章を読む姿を見ることができた。

今までにいろいろな言語事項を仕組みながら単元構想を練ってきたが、学習と活動とがリンクできていないことがあった。しかし、この活動目標は子どもがすぐにのってきた。授業後の感想には、「考えやすかった。」「おもしろかった。」などがあり、意欲が継続していたことが分かる。

本時のねらい「生き物の特徴とその根拠がつながる自分の考えをもとう」にリンクしたワークシートを作成し、活用していくことで、児童に読まざるをえない状況（読みの必然性）を持たせ、学びの方向性を示していくことができた。

#### ②課題

ワークシートは児童にとって最大の支援でもあるが、児童の思考を限定させてしまった。ワークシートが児童の思考を妨げるものではなく、思考を広げるものを開発していかなければいけなかった。

ワークシートを使い、自己内対話からグループ対話、そして全体対話へと展開させていった。しかし、集団思考の場（練り合い）を十分に設定し、指導者が切り返しなどをしてねらいに迫り、読み深めさせていくことができなかった。

学習目標に向かっている活動になっているかどうかの「活動のマネジメント」をしっかりと見直し、活動主義に陥らないように今後も留意していく。

意見文を書いたあとに意見交流会を学級内で開いたが、学級や学年を越えて児童がより緊張感をもって意見交流をしていくなど、場の設定をもっと切実な場になるように工夫した方が良かった。

子どもが文章を読まざるを得ない場の設定を仕組んでいくことで、読む必然性が生まれ、意欲的に説明的な文章を読み進めていくと考える。

また、児童の思考を広げ、読み取りの力を付けていくことができるように、今後も学習目標と活動目標とがリンクした単元を構想し、読むためのゴールを明確にした効果的な言語活動を仕組んでいく必要があると考える。